

第1回医療DX推進協議会及び第1回電子カルテ部会における 都民・患者への医療DXに係る普及啓発に関する主な意見について

第1回医療DX推進協議会

- 開催日：令和7年7月9日（水）
- 委員：学識経験者、関係団体代表、患者、公益機関、関係行政機関、都職員 計23名
- 目的：都民に切れ目のない質の高い医療を効率的に提供するため、都内医療機関等がデジタル技術を活用した情報連携や基盤整備を図るために必要な専門的な意見を徴取する
- 所掌事項：(1)都内医療機関等におけるデジタル技術を活用した情報連携及び基盤整備に関すること
 (2)(1)に係る情報発信に関すること 等

主な意見

メリットの整理	<ul style="list-style-type: none"> ○患者・家族にどのようなメリットがあるのかをしっかりと捉えなければならない。 ○患者がメリットを感じないと医療DXの推進は難しい。メリットが何なのかは非常に重要。
都民への普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ○今まで医療機関だけにターゲットを当てていたが、恩恵を受ける患者側にもメリットを示した方がよい。 ○現状では、患者が医療DXのメリットを感じていない。 ○電子処方箋管理サービスで患者の過去の処方情報等を確認するためには患者の同意が必要。患者がメリットを感じないと、そもそも同意してくれない。患者の同意、都民の理解を得られるように進めていかないといけない。 ○電子カルテを導入している医療機関にはどのような利点があるのか、都民に知らせることが必要 ○何事もメリットがあると移行する。メリットがあることを打ち出していくことが必要。 ○患者にデジタル化や情報連携のメリットを感じてもらうのは非常に難しいが、正しい情報提供にしっかり取り組んでいかなければいけない。 ○電子カルテ導入に関する患者のメリットを親切丁寧に、地道に伝えていくことが必要 ○患者側のメリットが広く正しく伝わっていないのが現状。情報を分かりやすく発信し、入手できるようにすることが重要。

第1回医療DX推進協議会及び第1回電子カルテ部会における 都民・患者への医療DXに係る普及啓発に関する主な意見について

第1回電子カルテ部会

- 開催日：令和7年9月9日（火）
- 委員：学識経験者、関係団体代表、患者、都職員 計16名
- 目的及び所掌事項は「医療DX推進協議会」と同じだが、電子カルテの導入促進に向けた取組を加速していくため、本部会を設置

主な意見

メリットの整理	<ul style="list-style-type: none">○患者にとってのメリットをどのように打ち出していくのかが大事。電子カルテを導入するだけで発生するメリットもあれば、電子カルテに付随してアプリやAIを導入することで発生するメリットもある。中身の整理が必要。○患者・家族の当事者としてのペインを洗い出し、それを解決していくことは重要。現場起点にもなる。○患者が医療機関受診時に、何度も同じような病状説明を余儀なくされていると感じている。既往歴やアレルギー情報などをデジタル上で共有できるのはメリットが大きい。○患者メリットとしては、情報共有による重複投薬や相互作用の防止が考えられる。○電子カルテ導入による患者メリットは、複数の医療機関を受診している場合の情報共有に加えて、重複検査の防止、検査結果を簡単に印刷して患者に提供できる、画像データの取込みが容易、薬の一元管理が可能ということもある。○DXや電子カルテに対して不安を持っている人もいるかもしれない。どんな不安があるのかということをピックアップしてもよいのではないか。DXのメリットを発信する時に、こうした不安はこういうことで解消できるということを伝えられると思う。
都民への普及啓発	<ul style="list-style-type: none">○メリットを感じられるようになれば、患者もデジタル化されていない医療機関を選択しないというような発想に徐々に切り替わっていくのではないか。○電子カルテ導入によるメリットの前に、医療DX全般について、どのようなことが医療DXなのかということも含めて都民にアピールしていく必要があるのではないか。